

第 16 回被ばく医療総合研究所 セミナー

日 時 平成 29 年 1 月 11 日（水） 16 時～17 時

場 所 保健学研究科 E 棟 6 階 第 61・62 講義室

演 者 被ばく医療総合研究所 放射線物理学部門
教授 床次 眞司

演 題 「世界の高自然放射線地域」

対象者 学生、教職員、一般の方

要 旨

福島原発事故以降、国民の多くが放射線被ばくに対して関心が高くなっています。特に福島県では、環境中に残存している放射性物質が人体にどのように影響するのか不安を抱えています。現在の知見では、放射線被ばくが与える線量が高くなればなるほど、がんリスクが直線的に高まると考えられています。一方で、低い線量ではがんリスクが見出せないという意見もあります。放射線物理学部門では、「低線量率放射線の慢性被ばくが人体にどのように影響を及ぼすのか」をテーマとして、その手がかかりとなる線量に着目して、その線量が比較的高い地域で研究を展開しています。

本講演では、これまでの科学的知見を整理しながら、本部門で得られた新たな研究成果を紹介します。